

製品名: Uba5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19507**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	UBA5 UBA5; UBE1DC1; Ubiquitin-like modifier-activating enzyme 5; Ubiquitin-activating enzyme
別名	5; ThiFP1; UFM1-activating enzyme; Ubiquitin-activating enzyme E1 domain-containing protein 1
遺伝子 ID	79876.0
SwissProt ID	Q9GZZ9
免疫原	抗血清はヒト UBA5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

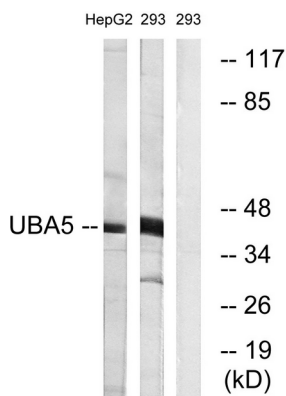
背景

この遺伝子は、E1 様ユビキチン活性化酵素ファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質は、高エネルギーチオエステル結合の形成を介して、ユビキチン様翻訳後修飾タンパク質であるユビキチンフォールド修飾因子 1 を活性化します。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。この遺伝子の偽遺伝子が 1 番染色体上に同定されています。[RefSeq 提供、2016年2月]、機能: UFM1 を活性化する E1 様酵素。類似性: ユビキチン活性化 E1 ファミリーに属します。UBA5 サブファミリー。、

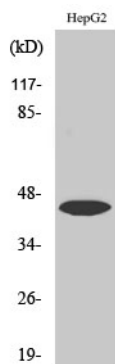
研究分野

細胞生物学; タンパク質分解/ユビキチン; プロテアソーム/ユビキチン; Ub 様タンパク質

画像データ



UBA5 抗体を用いた HepG2 細胞および 293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Uba5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。